

社会資本総合整備計画

そ ね ち く と し さ い せ い せ い び け い か く
曾根地区 都市再生整備計画

事後評価シート

きょうとふ きょうたんばちょう
京都府 京丹波町

平成28年3月

事後評価の評価体制	公表の方法
担当部局により評価を実施	京丹波町オフィシャルホームページにて公表

計画の名称	曾根地区都市再生整備計画事業		
計画の期間	平成24年度 ~ 平成26年度 (3年間)	交付対象	京都府京丹波町
計画の目標			

京都縦貫自動車道丹波綾部道路の開通に合わせた本町の特性を活かした魅力的なまちを形成する。

計画の成果目標 (定量的指標)
① 丹波自然運動公園等の周辺環境を活かし、自然や歴史、地域の人々とのふれあいを楽しむことが出来る交流拠点としての機能を発揮する。
② 基幹産業である農業振興による地域活性化を図る。
③ 京丹波町各地の魅力を発信することで、町内への周遊や潜在を促し、地域活性化を図る。
④ 高速道路機能を活かした広域防災活動拠点としての機能を発揮する。

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値 (計画策定時)	中間目標値 (-)	最終目標値 (H26末)	
① 京丹波町観光施設における年間交流人口 (千人/年)	1,720	-	1,970	
② 京丹波町の特産品数 (品)	12	-	14	
③ 地域イベントの開催回数 (回/年)	4	-	6	
④ 救援物資中継基地の対象人数 (人)	0	-	16,500	

全体事業費	合計 (A+B+C)	1,600 百万円	A	1,600 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%
施行全体事業費	合計 (A+B+C)	1,567 百万円	A	1,567 百万円	B	0 百万円	C	0 百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.0%

1. 交付対象事業の進捗状況

A1 基幹事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H24	H25	H26	H27	H28			
1-A1-1	都市再生	一般	京丹波町	直接	京丹波町	曾根地区都市再生整備計画事業	地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都市施設、地域創造支援事業 245ha	京丹波町							1,600	
															1,567	
合計												1,600				
合計												1,567				

B 関連社会資本整備事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H24	H25	H26	H27	H28			
															0	
合計												0				

番号	一体的に実施することにより期待される効果											備考
----	----------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	----

C 効果促進事業																
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
									H24	H25	H26	H27	H28			
															0	
合計												0				

その他関連する事業													
計画等の名称	事業種別	交付対象	要素となる事業名					市町村名				全体事業費 (百万円)	備考

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 事業計画全体の目標達成状況		<p>京都縦貫自動車道丹波綾部道路の開通に合わせた本町の特性を生かし、魅力的な町を形成する拠点施設として、道の駅「京丹波 味夢の里」を整備し、平成27年7月にオープンした。</p> <p>道の駅「京丹波 味夢の里」全体では年間2,575,352人（平成27年度）という多くの来場者があり、京丹波町の新たな玄関口として、町内の周遊や滞在を促す観光情報等を発信し、交流人口の拡大に寄与している。また、地域食材等を使用した特産品開発により、地域ブランドの向上による農業振興による地域活性化が図られている。さらに、防災拠点施設の整備により、高速道路機能を生かした広域防災活動拠点としての役割を果たしている。</p>			
II 定量的指標の達成状況	指標① 京丹波町観光施設における年間交流人口（千人／年）	最終目標値	1,970	目標値と実績値に差が出た要因	道の駅「京丹波 味夢の里」に想定以上の来場者があり、京丹波町全体の年間交流人口が拡大したため。
		最終実績値	3,607		
	指標② 京丹波町の特産品数（品）	最終目標値	14	目標値と実績値に差が出た要因	施設整備に合わせて新たな地域特産品を開発する仕組みを構築した結果、想定以上の新たな特産品が開発されたため。
		最終実績値	17		
	指標③ 地域イベントの開催回数（回／年）	最終目標値	6	目標値と実績値に差が出た要因	住民や地域団体が当該施設を活用して地域の魅力を伝えるイベントが開催されたこと、また、高速道路機能を生かして近隣市とともに広域的な交流イベントを開催により、想定以上のイベントが実施されたため。
		最終実績値	10		
	指標④ 救援物資中継基地の対象人数（人）	最終目標値	16,500	目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値	16,500		
III 定量的指標以外の交付対象事業の発現状況（必要に応じて記述）		<ul style="list-style-type: none"> ワークショップ等の開催により、地域住民の参画や地元による主体的運営意識の醸成が図られ、地域の新たな女性加工グループの設立につながった。 住民及び地域団体において、地元食材等を使用した新たな商品開発が進み、京丹波ブランドの向上につながった。 			

3. 特記事項（今後の方針等）

- ・交流人口の拡大に向けて、対面での地域情報の発信、手作りマップの作成やイベントなどを通じて、温かみのあるおもてなしで、肌で地域の魅力を感じてもらうため、様々な主体を巻き込んで地域の魅力を発信する。
- ・新たな地域特産品を開発するブランド検討委員会の取組みを継続し、地域食材等を使用したオリジナル商品を開発し、住民及び地域団体と連携して京丹波ブランドの向上に取り組む。
- ・当該施設に隣接する塩谷古墳群のボランティア案内など、住民や地域団体が当該施設を活用して地域の魅力や歴史を伝える取組みの後方支援を行う。
- ・高速道路機能を生かし、近隣市とともに広域的な交流イベントを開催し、連携して周辺地域の魅力を発信する。

(参考図面)

